

霞ヶ浦コミュニティセンターの今後のあり方について

1. 旧福祉館について

(1) 課題

平成10年に開館したあじさい館は、多世代交流と高齢者及び障害者の健康増進等を目的に「福祉館」・「公民館」・「図書館」機能が一体となった複合施設として運営されてきた。このうち、これまでの「福祉館」としては、トレーニング室・浴室・集会室で構成されているが、現在では民間で類似サービスが提供されており、公共が果たすべき役割の見直しを迫られている。また、人口減少や高齢化等により、市の財源的に今後も厳しい状況が続くなか、選択と集中により特に必要な政策に力点を置かなければならない状況となっている。

(2) 市福祉館運営協議会への諮問

上記課題を整理するため、令和5年11月10日付けで市福祉館運営協議会に対し、下記事項を諮問した（参考資料1）。

- ① 今後の福祉館のあり方について（特に、果たすべき機能と役割の現況への評価、維持管理のための経済的視点を踏まえた上での今後の運営の方向性）
- ② 今後の福祉館のあり方の検討を進めるにあたり、重要と認める事項

(3) 主な答申内容

令和6年3月8日付けで市福祉館運営協議会会長より答申を受けた（参考資料2）。

《果たすべき機能と役割の現況への評価》

- ・市内全域から幅広く利用されており、合併後の両地区の触れ合いを通した一体感の醸成に大きく寄与してきた。
- ・65歳以上の利用が7割を超えており、高齢者の健康維持増進、福祉の向上等、地域の憩いの場として活用されてきた。
- ・開館から25年が経過し、施設全体の老朽化が進み、特に浴室施設は根本的な設備の大規模改修を行わなければ、近いうちに運営が困難な状況となり、休止又は廃止を余儀なくされることが想定される。

《維持管理のための経済的視点を踏まえた上での今後の運営の方向性》

- ・福祉館の令和4年度決算額は、2,621万円の赤字決算となっており、今後も恒常的な赤字が続くものと予想される。
- ・今後の運営の方向性について、地域で担ってきた役割、堅調な利用者数を重視し、現行のまま存続させるのが理想であるが、現実問題として赤字状態の運営、大規

模改修の必要性など、多額の維持管理費用が掛かることが想定される。

- ・浴室使用料の改定を行ったとしても、高齢者の減少や、有料化による利用者数の減少を踏まえれば、赤字を解消するまでには至らない。
- ・赤字額が市の財政規模に比して過大なものであるかどうか、また、大規模改修の実施等について十分な協議検討を行っていく必要がある。
- ・浴室施設については、期限を区切って廃止していく判断が適正と考慮する。

《今後の福祉館のあり方の検討を進めるにあたり、重要と認める事項》

- ・十分な期間を設けて利用者をはじめ地域への懇切丁寧な説明を行い、コミュニティセンターへの移行との関係を考えながら、福祉サービスの低下を極力抑制されるよう別途対策を講じられたい。

2. 旧福祉館における収支及び利用状況について

(1) 収支状況

◆令和4年度決算について

【歳入】

	全体			福祉館分の額		
	令和4年度	令和3年度	比較	令和4年度	令和3年度	比較
あじさい館	5,083,429	3,691,435	1,391,994	4,794,529	3,480,390	1,314,139

【歳出】

	全体			福祉館分の額		
	令和4年度	令和3年度	比較	令和4年度	令和3年度	比較
あじさい館	100,811,226	87,526,866	13,284,360	31,007,090	30,537,952	469,138

- ・歳入について、利用者の増加に伴い前年度比較で1,314千円増となっている。
- ・歳出について、エネルギー価格等の高騰に伴い、燃料費・光熱水費が前年度比較で14,469千円の増となった。一方で施設等修繕に係る経費が前年度比較で13,248千円の減となっており、全体として469千円の増となっている。
- ・各年度収支決算において、令和3年度は27,057千円、令和4年度は26,212千円の赤字となっている。

(2) 利用状況

◆利用状況について

単位:人

年 度	合計	福 祉 館							
		トレーニング室				浴室・集会室			
		市内		市外		市内		市外	カラオケ (曲)
		全体	うち有料			全体	うち有料	全体	
平成30年度	76,297	5,257	1,414	72		68,399	15,332	2,569	11,783
令和元年度	70,469	4,462	1,259	54		63,447	14,523	2,506	9,361
令和2年度	33,677	2,372	418	24		30,452	6,848	829	5,386
令和3年度	49,646	2,851	439	2		45,590	9,980	1,203	6,168
令和4年度	62,706	3,832	795	17		56,941	14,598	1,916	6,584
令和5年末	72,153	4,619	1,220	33		65,527	15,517	1,974	5,089

- ・ コロナ禍の影響で令和 2 年度及び 3 年度の利用者数は落ち込んだが、令和 4 年度以降は徐々に回復し、令和 5 年度はコロナ禍前と同等以上の利用者数となった。
- ・ 浴室施設については、リピート率が高く、平均週 1 回以上（利用回数 月 5 回以上）の利用者数は、全体の実人数で 41%、延べ利用者数で 85%となっている。（参考資料 3）

3. 浴室施設の現状

（1） 浴室内の漏水について

① 経過

令和 6 年 4 月 15 日

浴室施設のうち「洋風風呂」について、以前より確認されていた洗い場の壁（3 か所）からの漏水が急激に悪化したため、安全な利用が担保されないと判断。

② 対応

浴室施設：詳細な漏水調査を行うため、令和 6 年 4 月 16 日から当面の間、浴室の利用を休止。

市民周知：令和 6 年 4 月 15 日付けで市 HP 及び施設内掲示で利用休止を周知。

（2） 浴室施設（全体）の状況

- ・ ボイラー設備修繕に対する部品供給は見込めない状況である（生産中止）。
修繕は、管理業務請負業者のハンドメイド等による代替部品を使用。
- ・ 浴室内、タイルの部分欠損。
- ・ サウナ室内、床板と壁板の結合部分の腐食。

4. 今後の運営方針

霞ヶ浦コミュニティセンターについては、気軽に利用できる地域住民の活動拠点としての要請に応えるべく、令和 6 年度に視聴覚室の照明工事を予定しており、また、令和 7 年度には空調設備の大規模改修（工事期間中は休館予定）を見込むなど、計画的に修繕・改修を行い、その機能を維持していかなければならない。一方で福祉館としての中核である浴室施設を改修していくことについては、ボイラー設備や浴室そのものの修繕に多額の投資が必要となるほか、恒常的な財政負担が続くことで、コミュニティ施設の維持はもとより、今後の市政運営に多大な影響を及ぼすことが懸念される。

これらを踏まえ、市福祉館運営協議会答申を尊重しつつ、施設全体の状態を確認したうえで、霞ヶ浦コミュニティセンターの運営方針を決定する。

か政策第 141号

令和5年11月10日

かすみがうら市福祉館運営協議会会長 様

かすみがうら市長 宮嶋 謙

(公 印 省 略)

かすみがうら市福祉館の今後のあり方について(諮問)

本市福祉館は複合コミュニティ施設としてのあじさい館の設置の際、その主要な複合機能の一翼を担うことでスタートを切ったところでありますが、平成10年の設置以来多くの利用者(市民)に支えられ、地域の拠点としてその機能と役割を十分に果たしてきたものと考えております。

一方、設置当時の福祉館の機能についても今では民間でその多くが提供されるような社会環境となっていることは、公共が果たすべき役割の点からも喫緊に見直しを迫ることを余儀なくされているといえます。また、市を取り巻く社会経済情勢も大きく変化し、特に人口の減少や市民の高齢化は著しく、少子化に拍車がかかっている状況であり、市が選択と集中、重点化といった視点から特に必要な政策に力点を置かざるを得ない状況を示しています。昨年2月24日にロシアがウクライナに侵攻して以降、加速した世界的なインフレは、欧米で大幅な利上げ(金融引き締め)が行われているにもかかわらず、未だ十分に収まっています。これを受け、食品・エネルギーの物価高騰が収まる気配はないと考えざるを得ないという大変厳しい状況です。

市としましては、これまでの取り組みを踏まえながら、今後の政策全般にあたり課題の整理、そして見直し作業をしていく必要があります。

以上のことから、本市福祉館の今後のあり方について、下記の事項を貴運営協議会に諮問いたします。

記

1. 今後の福祉館のあり方について(特に、果たすべき機能と役割の現況への評価、維持管理のための経済的視点を踏まえた上での今後の運営の方向性)
2. 前号に掲げるもののほか、今後の福祉館のあり方の検討を進めるにあたり、重要と認める事項

令和6年3月8日

かすみがうら市長 宮 嶋 謙 様

かすみがうら市福祉館運営協議会
会 長 川 井 義 久

かすみがうら市福祉館の今後のあり方について(答申)

令和5年11月10日付け、か政策第141号にて貴職から諮問を受けた、かすみがうら市福祉館の今後のあり方について、慎重に審議を行った結果、次のとおり結論を得たので答申します。

記

1. 今後の福祉館のあり方

(1) 果たすべき機能と役割の現況への評価

平成10年に開館した「あじさい館」は、総合コミュニティセンターとして「福祉館」、「公民館」、「図書館」の3つの施設が一つになった複合施設で、世代を超えた様々な出会いを生み、憩いや学び、ふれあいを通じて市民に親しまれ愛される施設として利用されています。

なお、「福祉館」は、トレーニング室と浴室・集会室で構成され、市民の福祉を推進するための拠点として、ふれあいを通じた多世代交流と、高齢者及び心身障害者の健康増進等を図ることを目的に設置された施設です。

福祉館の利用状況は、リピート率が高く、開館以来20数年年間7万人前後で堅調に推移しており、コロナ禍による利用者減はあったものの、令和5年度は上半期で3万4千人の利用があり、コロナ禍前の利用人数に戻るのではないかと予想されます。

地区別の利用状況は、近年は、千代田地区の健康センター、老人福祉センター(新治広域事務組合)の入浴施設が廃止されたことにより、千代田地区の利用割合が増え、千代田地区4割、霞ヶ浦地区6割と市内全域から幅広く利用されており、合併後の両地区のふれあいを通じた一体感の醸成に大きく寄与しております。

年齢別の利用状況は、65歳以上の高齢者の利用が7割を超えており、設置目的である高齢者の健康維持増進、福祉の向上等、地域の憩いの場として活用されてきました。(添付資料参照)

しかしながら、あじさい館は、開館から25年が経過し、施設全体の老朽化が進み、特に福祉館の大半を占める浴室施設については、浴槽や浴室内の設備及び、ボイラー設備や配水給湯設備等が想定以上に老朽化しており、根本的な設備の大規模改修を行わなければ、近いうちに運営が困難な状態となり、休止又は廃止を余儀なくされることが想定されます。

また、浴室設備が廃止等となった場合、カラオケ施設やトレーニングルームの入浴に関連する設備については、利用者数の減が見込まれることから福祉館全体としての運営について見直していく必要があると判断します。

(2) 維持管理のための経済的視点を踏まえた上での今後の運営の方向性

福祉館の令和4年度決算額は、歳入479万円、歳出3,100万円で、2,621万円の赤字決算となっており、今後も恒常的な赤字が続くものと予想されます。(添付資料参照)

今後の運営の方向性については、福祉館設置の背景を踏まえ、地域で担ってきた役割、堅調な利用者数を重視し、現行のまま存続させるのが理想ではあるが、現実的な問題として、恒常的な赤字状態での運営、施設の老朽化に伴う大規模改修の必要性など、多額の維持管理費用が掛かることが想定されます。

また、利用者負担を求めるため、浴室使用料の改定を行ったとしても、これから高齢者の減少や、有料化による利用者数の減少を踏まえれば、赤字を解消するまでは至らず、このような状況で運営を継続していくためには、公金を投入して赤字分を補う必要があり、発生する赤字額が市の財政規模に比して過大なものであるかどうか、また、大規模改修の実施等について十分な協議検討を行っていく必要があると考えられますが、福祉館がなくなった際の福祉サービスの低下等は憂慮するものの、浴室施設については、期限を区切って廃止していく判断が適正と考慮します。

2. 今後の福祉館のあり方の検討を進めるにあたり、重要と認める事項

市の正式な方針は、本答申後に取りまとめるとされていますが、今後の福祉館のあり方の検討を進めるにあたっては、現下の状況及びあじさい館利用者アンケート調査結果(添付資料参照)を踏まえ、十分な期間を設けて利用者をはじめ地域への懇切丁寧な説明を行い、コミュニティセンターへの移行との関係を考えながら、福祉サービスの低下を極力抑制されるよう別途対策を講じられたいと思います。

参考資料 3

浴室利用者リピート者数(令和5年10月)

開館日数26日

利用回数	利用者数(人)		日数(日)	延利用者数(人)
1回	297		1	297
2回	118		2	236
3回	37		3	111
4回	45		4	180
5回	41		5	205
6回	24		6	144
7回	19		7	133
8回	25		8	200
9回	23		9	207
10回	16		10	160
11回	15		11	165
12回	12		12	144
13回	16		13	208
14回	9		14	126
15回	10		15	150
16回	16		16	256
17回	12		17	204
18回	7		18	126
19回	10		19	190
20回	15		20	300
21回	11		21	231
22回	8		22	176
23回	9		23	207
24回	8		24	192
25回	23		25	575
26回	19		26	494
	845			5,617

平均週1回以上(利用回数 月5回以上)の利用者数は348人で、全体の41%
 平均週2回以上(利用回数 月10回以上)の利用者数は216人で、全体の25%
 平均週3回以上(利用回数 月15回以上)の利用者数は148人で、全体の17%
 平均週4回以上(利用回数 月20回以上)の利用者数は93人で、全体の11%
 月1回の利用者数は297人で、全体の35%
 月26回の利用者は、19人で、全体の2%